

2025 年度中国語学科 中期留学成果報告レポート

提出者：河合 真菜

所属：中国語学科 3 年次

現地到着後にクラス分けテストがあり、1～6 班のいずれかに振り分けられた（希望により別のクラスに移ることも可能だった）。私は HSK5～6 級相当の授業を行う 5 班に振り分けられた。授業は「総合演習」「口語」「読み書き」の 3 科目があり、教科書に沿った内容に加え、学生からの質問に応じて、より現代的な表現やネイティブの感覚についても教わった。同じクラスの他国の留学生と交流する機会が多く、日本のアニメに関心を持つ学生も多かったため、簡単な日本語のフレーズを教えることもあった。また、会話を通じて各国の文化や社会制度について理解を深めることができ、例えば彼らから母国の徴兵制度について聞いたことは、貴重な経験であった。

インターンシップでは、作文の添削や発音指導を行ったほか、同年代同士との交流として、若者の間で使う口語表現について意見交換を行った。担任の先生とは三度一緒に食事をする機会があり、日本と中国の食文化の違いについて学んだ。

これらの体験を通じて成長を実感した点は、会話能力の向上である。留学前は中国語を実際に話す機会が乏しく、発音にも不安があったが、現地で中国人が日常的に使うフレーズに触れることで、自分の伝えたいことを言葉にしやすくなった。また、帰国直前にはインターンシップ担当の先生から発音が上達したと言ってもらい、今後の中国語学習への大きな自信につながった。